

スポーツに関する仕事

取材・文/伊藤敬太郎 イラスト/桔川伸

理系の研究職やイベント企画職、IT系のスペシャリストも活躍!

サッカー、野球、テニス、ラグビーなど、日本国内でも世界でもさまざまなスポーツ競技が楽しられている。プロから子どもまでプレイする層は幅広く、選手の育成やサポートをする仕事、試合や興行を支える仕事など、関係する職種も多様。また、AIの専門家などが活躍する場も年々広がっている。では、詳細を解説しよう!

プロスポーツ選手

野球、サッカー、バスケットボールのようにプロチームと契約することでプロ選手となる競技のほか、ゴルフやボクシング、競輪選手のようにプロテストに合格することでプロ選手となる競技も。このほか競技によっては個人でスポンサーを獲得し、プロとなる道もある。

監督・コーチ

学生・少年スポーツやプロスポーツで、選手を育成し、試合で指揮を執る仕事。プロ野球などは選手が引退後にコーチや監督になるのが一般的だが、高い競技実績がなくても少年スポーツなどの指導者になることは十分可能。競技によってはライセンスが求められる。

チーム運営スタッフ

プロスポーツチームなどで、現場の監督・コーチ・選手の活躍を支え、チームを運営する仕事。全体方針を決める経営陣、チームを地域に根付かせるための企画を立案・運営するスタッフ、選手の育成システムの整備やスカウティングを担う強化スタッフ、広報などが代表例。

実況アナウンサー

テレビ、ラジオのスポーツの実況放送で、試合の状況などをリアルタイムで視聴者に伝えるアナウンサー。展開が目まぐるしく変わる競技では高度なアナウンス技術が求められ、名実況は長くファンの間で語り継がれることも。放送局社員のほか、フリーで活躍する道も。

スポーツ記者

一般紙・スポーツ紙・放送局のスポーツ部門やスポーツ雑誌の編集部に所属し、試合の結果や選手の声を伝える記者。競技に関する幅広い知識や選手の気持ちを巧みに引き出すインタビュー技術が求められる。フリーのスポーツジャーナリストとして活躍する道も。

審判

球技の場合は、ボールのイン・アウトやファウルなどを判定する。ボクシングなどではTKOの判断やラウンドごとの採点を行う。体操やフィギュアスケートなどでは、技の難度や完成度を採点する。多くの競技では、審判は競技団体による資格制度が設けられている。



スポーツカメラマン

スポーツの試合の様子などを写真や映像でとらえるカメラマン。一般紙・スポーツ紙・放送局のスポーツ部門やスポーツ雑誌の編集部に所属している社員カメラマンもいれば、依頼を受けて撮影するフリーカメラマンもいる。いかに決定的瞬間を押さえるかがカギとなる仕事。

スポーツアナリスト

試合中の選手の動きや局面ごとの成績などの情報を集め、データサイエンスやAIなどのテクノロジーを駆使して解析することで、チームの戦略立案、相手チームの分析などを行う仕事。その競技に関する専門知識と同時に、ITや統計学に関する高度な専門能力も求められる。



スポーツ施設運営・管理

野球場、サッカー場、陸上競技場、総合スポーツセンターなどの利用スケジュール管理やコンディション整備などを行う。民間施設は運営会社社員が、公共施設は自治体職員などがその役割を担う。ドーム球場などの大規模施設はコンサートなどスポーツ以外の利用も多い。

スポーツプロモーター

スポーツの大会や試合を企画し、運営する仕事。スポンサー探し、出場する選手やチームとの交渉、会場の確保や当日の会場設営、テレビの放映権交渉、イベントの宣伝など手掛ける仕事は幅広い。スポーツイベント会社や広告代理店の社員がその役割を担う。

スポーツ科学の主な研究分野

1 スポーツ医学

人間の体や競技の特性に応じた効果的なトレーニング方法やコンディショニング、ケガの予防や治療などを総合的に扱う研究分野。

2 運動生理学

運動によって人の体の神経系、呼吸器系、循環器系などにどのような反応や変化が起こるかを科学的に研究する分野。

3 スポーツ栄養学

選手それぞれの目的や状態に合わせて、コンディショニングやパフォーマンスの向上につながる栄養素の組み合わせなどを研究する分野。

4 スポーツ心理学

選手の心理状態がパフォーマンスにどのように影響するかを分析し、効果的なメンタルトレーニングの方法などを研究する分野。

スポーツ科学研究者

大学や研究施設でスポーツに関連するテーマを研究する仕事。スポーツ科学が扱う領域は非常に幅広く、左に挙げたのはその代表例。選手のトレーニングやコンディショニングの維持・向上、シューズなどスポーツ用品の進化などにその研究成果が大きく貢献している。

体育教師

中学・高校で体育を指導する教師。体育教師になるには、教育学部の体育系コースが体育大学を卒業し、中学・高校の体育科の教員免許を取得することが必須。授業では陸上競技、球技、水泳、武道など幅広い種目を扱う。中学・高校の部活動の顧問を務めることも多い。

パーソナルトレーナー

スポーツクラブやフィットネスクラブで、マンツーマンで顧客の目的に合わせて筋トレやエクササイズを指導する仕事。指導する対象はプロスポーツ選手から、ダイエットや健康維持を目的とする一般客まで幅広い。必須ではないが、関連する資格があると有利。

スポーツインストラクター

フィットネスクラブやスポーツジム、スイミングスクール、ダンススクール、体操教室などで、一般客を対象に水泳、エアロビクス、ヨガ、ダンス、体操などの指導を行う仕事。ジムやスクールに所属するほか、フリーのインストラクターとして活躍することも可能だ。

最新の業界事情

AIによる戦略立案、自動採点などが進む

ここ数年、スポーツへの最新テクノロジーの導入が急速に進行。人工知能(AI)を活用した戦略立案や相手チーム分析、選手へのコーチングなどは既に各競技に広がっている。AI審判の開発も進み、体操競技は2019年から国際大会でAI自動採点システムを導入。AIや3Dセンサーの開発者がスポーツ分野で活躍する機会が増えている。

コンピュータゲームをスポーツ競技としてとらえるeスポーツも急速に普及。2019年の茨城国体では、文化プログラムの一環としてeスポーツ大会が開催され、話題を集めた。

「特殊な業界のように思われがちですが、私たちの業務は、データを横濱DeNAベイスターズの広報部の仕事は、選手への取材などに対応するチーム付広報と、球団のイベントなどをPRする事業広報とがある。河村さんは主に後者。一例えば、球団は女性の観客限定でグッズをプレゼントしたり、女性を対象にしたトークショーを開催したりする女性向けイベントや子どもを主役にしたイベントなどを年10回ほど開催しています。これらの情報をメディアやSNSでPRすることが私たちの仕事です」

「この職業に就くにはプロ野球球団は全12球団で、広報スタッフも数人ということが多いので、就職するのは狭き門。ただし、スポーツチームの広報ということでは、最近ではバスケットや卓球などプロ化する競技も増えており、チャンスは少しずつ増えている。できるだけ多くのスポーツやエンターテインメントに触れ、その魅力を知ることが、広報スタッフとしての力になる。」

河村さんの「一日」勤務時間は9時半から18時が基本。午前中はメールチェックなど。午後からはスリッパなどを作成。横浜スタジアムはオフイスの目の前なので1日1回は訪れ、現場でメディアの担当者ややりとりすることもある。

コロナ禍でも特別動画でファンを楽しませる!

もともと分析をして、企画を立てるというもの。「一般の会社の業務と何も変わらないですよ」

職種 PICK UP!!

プロ野球球団 広報

株式会社横浜DeNAベイスターズ
ブランド統括本部 広報部 部長
河村康博さん(33歳)



千葉県立木更津高校、法政大学社会学部卒業。2009年に新卒でPR会社に入社し、5年間勤務。さまざまな企業の広報活動を担当してきた。2014年に株式会社横浜DeNAベイスターズに転職し、広報部のスタッフに。2019年から広報部部長を務めている。